

よしまい

2022年1・2月



目次

まさかのヤツガシラ 公園に現れる!!

公園の風景

- ・おイモじゃないよ・・・1
- ・カモの見分け方・・・1
- ・ヤブツバキ・・・1

ラムサール登録への道 ①・・・2

みんなのひろば

- 阿知須 今昔・・・2

活動紹介

- ・Today birds, tomorrow humans・・・3
- ・野鳥が来るリース・・・3
- ・アサギマダラロード造成中・・・3
- ・きらら浜おみくじで運だめし・・・3

発行：「葦の会」機関紙チーム

事務局：〒754-1277 山口市阿知須 509-53

きらら浜自然観察公園内

電話 0836-66-2030 (FAX 66-2031)

mail ashinokai.kirara@gmail.com

「葦の会」はきらら浜自然観察公園で活動するボランティアグループです。自然を楽しみながら、その素晴らしさを一緒に学び伝えていきませんか？

会員募集中！（高校生以上）

公園の風景

= おイモじゃないよ =



コゲラじゃないよ

12月初旬、公園にヤツガシラがやってきました。…おイモの話、ではないですよ!? サイチョウ目の珍客で、来園は15年8ヵ月ぶり。連日たくさんのカメラに囲まれ人気者でしたが人目を気にする様子もなく、そのシルエットのようにツルハシよろしくクチバシを地面に突き立ててせっせと虫を掘り出していました。なぜか隣の防災公園の広大な芝生には見向きもせず、淡水池横の小さな芝生にご執着の様子。名前の由来となった冠羽を広げた姿を見られた人はラッキー!! 1週間ほどでいなくなりましたが沢山の人々を楽しませてくれました。

= カモの見分け方 =

12月の第2日曜日に行われた公園の行事「ぶち楽しいバードウォッチング」のテーマはカモの見分け方でした。

頭と首が鮮やかな緑で白い首輪のマガモ、頭、胸、胴が茶、黒、灰色に見えるホシハジロ、赤茶色の頭の真ん中にベージュが入ったヒドリガモ、黒パンツをはいているようなオカヨシガモ、顔が白黒でパンダのようなミコアイサ……。17名余りの参加者たちはカモの識別ポイントを教わりながら望遠鏡や双眼鏡をのぞいてじっくり観察しました。嘴が広く独特の風貌のハシビロガモを見つけて「面白い顔!絶対忘れん」との声も。どれも同じように見えるカモたちが見分けられるようになり、お気に入りのカモができるとバードウォッチングがますます楽しくなります。「カモに似ているけどカモではない鳥」が一緒にいたのもわかったかな?



= ヤブツバキ 藪椿 =

自然観察公園が干拓地に開園される時に30~40種の幼木が植えられ、敷地内に自然の造形がもたらされました。公園では昨年の12月中旬より赤い花をほころばせ始めたヤブツバキが20年の時を経て、立派な樹木としての成長を見せてくれています。学名 *Camellia japonica* が示す通り日本固有の植物です。1848年に執筆されたフランス人アレクサンドル・デュマによる「椿姫」の主人公が愛したのは椿の花。既にこの時代には海外でも注目されていたことがうかがえます。



普段、ツバキと呼んでいるものはこのヤブツバキのことで、樹高5~15m程にもなるツバキ科ツバキ属の常緑樹です。花は5枚の花弁を筒状に開き平らに開くことはありません。ここがサザンカと見分けるポイントです。花は春先まで楽しむ、種子はツバキ油の原料となります。徳地重源の里にある浮橋神社の樹齢800年の御神木ツバキは必見です。

ラムサール登録への道 ①



みなさん、「ラムサール条約」って知っていますか？
きらら浜自然観察公園を含む山口湾は今、そのラムサール条約に
早ければ3年後の登録を目指して動いています。

そこでこれから数回にわたり、「山口湾とラムサール条約」について特集していきます。

初回の今号は「ラムサール条約の生い立ち」から。

正式名称は「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」。湿地には、干潟や湖沼、湿原、ヨシ原など様々な種類がありますが、そのどれもが生物多様性だけでなく人間の生活に大変重要な役割があります。しかし干拓や埋め立てなどで開発されやすく破壊されやすいという面もあります。湿地の生態系ピラミッドの頂点は主に水鳥でその多くは国境に関係なく渡りをするので、湿地は国境をまたぐものもあり、国際的な取組みが必要であることから、1971年にこの条約が採択されました。ちなみに「ラムサール」とは国際会議が開催されたイランの都市の名前です。
(つづく)

みんなのひろば😊

阿知須 今昔

阿知須の最北に位置する286haにわたる干拓地は、美しい海岸線と引き換えに米耕作用地としての工事が1947年に着工された。1997年に埋め立て工事の終了をみたものの、時既に米の増産を必要とはしておらず干拓地は放置状態に。しかし2001年開催された「21世紀未来博覧会」の用地活用が計られ、自然と造形が一体化したエリアとして生まれ変わった。現在は「山口きらら博記念公園」として県民の交流やスポーツ振興が図られており、我々が「県立きらら浜自然観察公園」は一足早く博覧会開催の年に開園している。当時は山口県吉敷郡阿知須町であったが、その後2005年に山口市に組み入れられ山口市阿知須となり、今年で市政17年を迎えるに至っている。



阿知須は「阿知須浦」として室町時代に漁村として始まった。江戸時代には廻船業へと幅を広げ、米、塩、綿を九州、大阪、江戸に輸送して大きな利益を得たとのことだ。当時の集落は茅葺きの住居で度々大火に見舞われ、廻船業で富を得た人々は屋根を瓦で葺き大壁に漆喰を塗りこんだ家を建てるようになり、これが今に残る「居蔵造」である。昭和20年代まではダンスホールやビリヤード場などもあり、地元民以外の人々も出入りする繁栄の時代があったようだ。現在の人口は約9400人、子供たちの「こんにちわ！」の声がみんなを元気にしている地域である。
(Tasha)

上陸の目印になっていた石造りの沖見灯が町内の井関川下流に今も置かれている



活動紹介

= Today birds, tomorrow humans =

昨年の11月20日(土)、NPO法人野鳥やまぐちと榎野川河口域・干潟自然再生協議会主催の「クロツラヘラサギの保全のための海岸清掃」が山口湾の干潟で行われ、葦の会もごみ拾いに参加しました。海岸沿いには漂着ゴミの他、投棄され放置されたペットボトルや空き缶などが大量にあり、プラゴミの中には持ち上げるとポロボロと崩れてしまうものもありました。クロツラヘラサギに限らず、他の生き物が間違えて食べたり、プラスチック製の糸に絡まったり破片で怪我をしたりしないよう環境を守っていききたいものです。今日鳥に起こることは、明日は人間に起きるかもしれないのです。

<俳句教室 最多選句>

= 野鳥が来るリース =

昨年12月18日(土)に行われた葦の会による恒例クリスマスリース作り。思い思いのリースができあがっていきました。



リースの実を食べに来たメジロ(^^)

・ 歳重にも羽音響かせ鴨の群れ	・ 冬波にかもめ浮かべて青き湖	・ 冬晴れや遠き山並冴えるなり
はるか	清子	敬子

11月

12月

= アサギマダラロード 造成中 =

公園の西園路にアサギマダラ観察ロードの整備を進めています。かつて植えたものの密集しすぎて弱っていたフジバカマを株分けし、新しく植えつける場所を耕しながら少しずつ面積を広げています。1月16日には看板も立てました。浅黄色が乱舞する日を一緒に夢みませんか？一般の方も参加募集中ですので是非ご連絡下さい！フジバカマの苗のご提供もお待ちしております。

= きらら浜おみくじで運だめし =

昨年からはまった葦の会の手作りおみくじが今年もあつという間になりました。今回は当たりくじ付き。折り紙の鳥を開いたら元に戻せない🐦との声にお応えし、作り方を書いた紙も付けました。開運はきらら浜自然観察公園から？ちなみにおみくじの中身は会員たちが手分けして描いたイラストを元にして作っています。来年は何にしようかな～。



今年の運勢は？

<編集後記>

気持ちも新たに迎えた新年、「虎穴に入らずんば虎子を得ず」と言いますし、今年は「虎視眈々」と機会をうかがい「虎の巻」にトラわれずいろんなことにトライする年にシタイガー！ (TKO)